

第三種郵便物承認 増刊HSK通巻 6043 号 2025年4月30日発行

増刊HSK

会報「石川守る会」

NO.109

石川県重症心身障害児（者）を守る会
全国重症心身障害児（者）を守る会
石川県支部 会長 永井 一郎

4月になり少し暖かくなるかと思っていましたが、急に冷え込んだりして体調を整えるのがたいへんですが、会員の皆様方やお子様方はお変わりないでしょうか。

さて昨年の能登半島地震発生から1年4ヶ月が経とうとしています。能登では行政やボランティアのみなさん達が復旧や復興に向けて活動されていらっしゃいますが、中々進んでいないとの報道もされています。

被災された皆さんが一日も早く安心して暮らせるように願っています。

「石川守る会」では関係団体とも協力して「防災学習会」を開催しました。皆様方の関心も高く当日は会員を初めとして保護者や支援者のみなさんが50名程参加されました。能登半島地震以後も各地で地震だけではなく大規模な山火事や豪雪などの自然災害が起こっています。

災害時は何より「孤独にならない・しない」ことが大切だと強調されました。日頃のつながりを大切にしていきたいとの思いを改めて強くしました。

「防災学習会」が開催される!!!

3月2日(日)医王病院の大会議室をお借りして「防災学習会」が開かれました。

昨年の能登半島地震の体験からどうすれば子どもそして自分自身を守れるのかとの思いを持つ「石川県重症心身障害児(者)を守る会」「石川県肢体不自由児父母の会」「医王病院」「いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの」「重症児・医療的ケア児相談事業さくらんぼスマイル」の協力の下開催しました。

当日は子どもたちを含め50余名の方が参加されました。

「医王病院における能登半島地震の支援活動・その後の取り組み」について

講師 医王病院第2診療部長 丸箸圭子先生

医王病院は総病床数310床、人工呼吸器使用が110台とセフティネット医療機関である。石川県における医療的ケア児支援ネットワークとしては令和1年に医師・看護師・リハ担当者・福祉・教育・行政の各分野から参加する「医療的ケア児支援連絡会」立ち上げられた。また令和4年4月からは「医療的ケア児支援センター」が石川県の委託を受けて医王病院に開設された。

○地震発生直後の状況

昨年1月1日地震発生時の医王病院の震度は5強でした。まずは自分の身の安全を確保しライフラインの状況を確認しました。電気と水は大丈夫でしたが、エレベーターは停止しました。当日は休日体制で職員の数も少なく医師は1名でした。

直後から家族からの安否確認の電話が鳴り続け、近隣の住民の方々も病院に集まって来られたり、入院依頼や退院延期など様々な申し出が有り、関係機関の問い合わせや対策にスムーズに取り組めませんでした。災害伝言ダイヤル等の活用で情報発信が届くようにする必要があると思いました。

災害本部も立ち上げ休み中の職員も自主的に来院してきて、とにかく夕食の運搬や災害食の配布などを行いました。エレベーターも動いてはいましたが、いつ止まるか不安なので無人で食事だけ載せて運びました。

避難患者リスト(当院通院、在宅管理対象者、ディサービス・ショートスティ利用者)で希望のあった患者さんから重症児者2名、神経難病患者12名を受け入れました。

○外部との連携について

最初に紹介したように石川県医療的ケア児支援連絡会、石川県医療的ケア児支援センター、災害時小児呼吸器地域ネットワーク、災害時小児・周産期リエゾンなど顔の見える関係が出来ていたこともあって、被災された方々を県内での移送のみで支援できたことはよかったと思いました。

○教訓として

- ・「個別避難計画」の作成とともに共有することが必要である。
- ・日頃からの顔の見える関係作りが大切である。孤独にしない・ならない！
- ・定期的な避難訓練
- ・「安心ファイル」の作成を県全体に周知を徹底する。

「防災ディキャンプ」を実施して

さくらんぼスマイル 高村 理恵氏

会報107号でも紹介した「防災ディキャンプ」についての報告がありました。

2024年9月28日あおぞら福祉会工房シティに医療的ケアやサポートの必要なお子さんとそのご家族7組とボランティアを含めて50名の参加で実施しました。

「実際にやってみる」をテーマに災害発生を想定して普段のケアなどを体験しました。

- ① 車中泊ブース: 大きさの違う3台の車の中で過ごしてみる。
- ② 食事ブース: 電気がなくお湯も使えない中で嚥下困難な子の食事を作ってみる
- ③ 口腔ケアブース: 少ない水での工夫、安全な歯磨き粉、スポンジ、ケアシート
- ④ トイレブース: 業者さんの協力で様々な災害用トイレの体験
- ⑤ 避難所ブース: ダンボールベッド、手動や足踏み式の吸引器の体験など

「被災者の方からの報告」

石川県重症心身障害児(者)を守る会 永井 陽子氏

動画での報告を予定していましたが、都合により被災者の方から頂いた体験を口頭で発表し、防災に準備しておくに役立つ品物の紹介もしました。

- ・とっさに子どもの頭を炬燵に押し込んだ。
- ・20kgの子どものを抱きかかえて、裸足で外へ飛び出した。親の筋力が大切だと痛感した。
- ・避難所の衛生面を見ると免疫力の弱い障害の重い子どもが過ごすのは心配で車中泊にしました。
- ・電気より断水が一番困りました。こんなに長引くとは思わなかった。
- ・道路が陥没などで通行できないのが困りました。

報告後の意見交換会では以下のような意見が出されました。

- ・それぞれの家庭の事情に合わせて避難行動を考えることが必要である。
- ・医療的ケア児の家族が困ったときに相談できる人や制度について退院時のカンファレンスで情報提供する必要がある。
- ・日頃からコーディネーター、支援者、親と一緒に学ぶ機会が必要である。
- ・「我慢は最終手段」である。「ヘルプ」の声を出すことで支援者につながる。

第三種郵便物承認 増刊 HSK 通巻 6043 号 2025 年 4 月 30 日発行

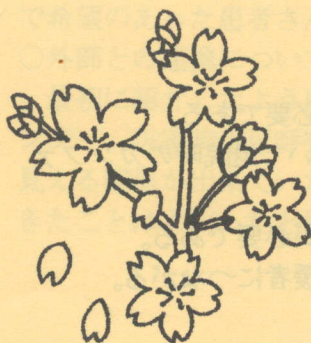
～参加されたみなさんより感想が寄せられました～

- ✧ 石川県や金沢市の取り組みについてはほとんど知らなかったので色々な情報が知れてよかったです。災害時安心ファイルについて早速見直そうと思いました。
- ✧ 突然の事態にもかかわらず、ありとあらゆる手段、連絡方法を取りながら、個別の支援に全力を尽くされたことを知り、心から感謝致します。又親それぞれが日頃準備しておくことや、関係者の方々との情報のとり方を考えておかねければと感じました。
- ✧ 発災時の医王病院の取り組みを聞かせて頂き感謝の思いです。災害への対策をしなければと思いながら、不十分なままです。まず備蓄の確認から始めます。
- ✧ 能登で被災された方の報告を聞き、実際の様子が目に浮かぶようで、自分だったらと考えました。
- ✧ “防災は我慢することではない、前向きな気持ちで” 家族で考えてみます。

以上保護者のみなさんから

- ✧ 迅速な対応・検討がすごいなと感じました。誰もが安心して過ごせるためにはたくさんの方の支援があることも実感できました。
- ✧ 発災時からの状況をお聞きして、支援者が仕組みを知っておくことも大変重要なことだと思いました。まずは自分の所属内から取り組めたらと思います。
- ✧ 災害直後だけでなくその後もみんなが生活できるよう医療・福祉・行政・教育との連携が大切だと感じた。また、日頃からの関係作りが緊急時には救いになると実感したので大切にしたいです。
- ✧ 災害時誰もが不安な中でいかに孤独にしない、つながることが最大の安心になると感じました。
- ✧ 一番の自助は「親の筋力・体力」というワードになるほどと感じました。
- ✧ 実際にリアルな声を聞くことができ、改めて支援者としてやるべきことを考えていくべきだと思いました。
- ✧ 被災された方のお話を聞き、当日のことを思い出し涙が出そうになりました。

以上支援者のみなさんから



編集人	石川県重症心身障害児(者)を守る会
連絡先	920-1154 石川県金沢市太陽が丘 3-19
	TEL 076-221-6822
	会長 永井 一郎
発行人	北陸障害者定期刊行物協会
	富山市今泉 312 番地
定 価	30 円